

## 話題の中心に着目した Twitter まとめシステムの提案

前田 祥

現在 Twitter というサービスが注目を集めている。Twitter は「つぶやき」を投稿できるサービスで、140 文字以内という制限とともに「気軽さ」を売りにしている。現在日間およそ 4 億ものつぶやきが投稿されているため、流れが非常に速く、その中で何が起きているのかを把握するのは至難の業である。そのため Twitter のつぶやきをまとめ、保存できる Togetter もまた注目を集めている。Togetter では、つぶやきを自由に選び並び替えてまとめを作ることができる。しかし、Twitter と同じように 1 列でしか表示できず、どこが話題の中心なのか、議論の構造がどうなっているのか、そもそもどういうまとめなのかを視覚的に把握するのは難しい。そこで、本研究では Togetter とは違った形で Twitter のまとめを作成するシステムを開発し、より視覚的に把握しやすい Twitter まとめシステムを提案する。

本研究では Twitter を二次元的な配置でまとめるシステムを開発した。これにより、Twitter 上でのやり取りを 1 列にまとめるのではなく、複数列、あるいは列という概念に縛られずにまとめることを可能にした。基本は Togetter と同じような操作でまとめを作るが、本システムでは 5 列×60 行の表の中につぶやきをドラッグしてまとめを作成する。まとめの閲覧者は、個々のつぶやきではなく、全体の構造でまとめ記事を俯瞰することができるようになっていく。

本システムの有効性を検証するため、評価実験を行った。すでに Togetter 上に存在するまとめ記事の本システムに読み込み、まとめなおすことで Togetter との違いを検証した。同時にシステムに対する評価アンケートも行った。被験者は 9 名である。実験の結果、同じまとめ記事に対し、作成者の意図を反映し、各個人で違った配置のまとめを得ることができた。アンケートの結果、システムを利用して楽しい、表現の幅が広いという回答が多くみられた。さらに、個々のまとめは意見を並列にまとめたり、話題の転換を二次元的に表現するといった Togetter ではできないような形でまとめることができていた。ただし操作性に関しては悪いという回答が多く、二次元のドラッグ&ドロップの操作には改善の余地があるといえる。

今後の課題は、操作性の向上があげられる。また作成者だけでなく、閲覧者側がシステムでつくられたまとめをどう受け止めるか検証する必要がある。

(指導教員 松村敦)